

事務局だより

会議報告

令和4年4月1日より令和4年9月30日まで

◆第26回理事会

月日…令和4年6月3日(金)

場所…主たる事務所

出席…理事・監事

決議事項…

① 自令和3年4月1日至令和4年3月31日

事業年度に係る事業報告の件

② 自令和3年4月1日至令和4年3月31日

事業年度に係る決算の件

③ 顧問選任の件

④ 定款の一部変更の件

⑤ 定時評議員会の開催招集の件

報告事項…

① 顧問退任の件

② 理事辞任の件

③ 理事選任の件

④ 職務執行の報告

⑤ 会員数の報告

◆第14回評議員会

月日…令和4年6月22日(水)

場所…主たる事務所

出席…評議員

報告事項…

① 自令和3年4月1日至令和4年3月31日

事業年度に係る事業報告の件

② 理事辞任の件

③ 顧問選任の件

④ 会員数の報告

決議事項…

① 自令和3年4月1日至令和4年3月31日

事業年度に係る決算の件

② 定款の一部変更の件

③ 理事選任の件

賛助会員

団体・法人会員

個人会員

合計

115件

86件

988名

1,189件

祭事日程

下鴨神社だより

●令和4年下半期行事

10月9日

えと祈願祭

12月12日

御薬酒若水神事

●令和5年上半期行事

1月1日

歳旦祭

1月4日

蹴鞠初め

1月9日

成人祭、初えと祭

2月3日

節分祭

3月3日

流し雛

各祭事の開催有無については、
下鴨神社のホームページにて
ご確認ください。

新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産糸の森の環境保護と下鴨神社の文化財保全にご理解・ご協力をいただきたく、会員の皆さまには、新しい会員募集の呼びかけに一層のご支援、ご協力をお願いいたします。糸の森財団ホームページの「入会申込フォーム」からお申込みいただけます。

ご寄附のお願い

令和三年度及び令和四年度の前半も多くの「ご寄附をいただき、糸の森に関する数々の保存整備事業を実施することができました。心よりお礼申し上げます。令和四年度の後半も引き続きご支援をよろしくお願いいたします。ご寄附は同封の振替用紙をご利用いただきますようお願い申し上げます。また、糸の森財団ホームページの「寄付申込フォーム」からも、お申込みいただけます。

クレジットカード決済に関するお知らせ

ご寄付・ご入会(継続の年会費支払も含みます)・ご献木をされる際に、糸の森財団ホームページの申込フォームにおきまして、クレジットカードでの申込が可能となりました。国際ブランド(VISA、JCB等)のいずれかのロゴがついていれば、発行しているカード会社に関係なくご利用可能です。なお、クレジットカード決済の留意点は当財団HPの「森を守る」(「寄付・ご入会・ご献木」)をご覧ください。

ニュース

寄附金に税額控除制度が適用されます

当財団は平成29年8月10日付で内閣府より税額控除に係る証明書を取得しました。この度更新され、令和4年7月27日付の新たな証明書(令和9年8月9日まで有効)が当財団HPに添付されています。これにより、個人の当財団への寄附・会費・献木について、領収書及び税額控除に係る証明書を添付の上、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、左に示す算式により算出された額が所得税額から控除されます。

$$\text{寄附金特別控除額} = \left[\text{その年中に支払った公益社団法人等に対する寄附金の額の合計額} \times 40\% \right] - 2,000 \text{円} \quad (\text{※1}) \quad (\text{※2})$$

※1 「その年中に支払った公益社団法人等に対する寄附金の額の合計額」については、その年分の総所得金額等の40%相当額を限度とされます。
※2 寄附金特別控除額は所得税額の25%相当額が限度となります。

糸の森、

題字
賀茂御祖神社
新木直人宮司

編集・発行

公益財団法人

世界遺産賀茂御祖神社境内糸の森保存会事務局

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010

www.tadasunomori.or.jp



糸の森
財団報
糸の森
財団

令和4年9月30日発行
通号74号

Vol.26

糸の森、

糸の森ぶらりぶらり 第二十五回

延宝度神宮寺観音堂の
復元について

糸の森NEWS／催事案内

表紙写真／中田 昭
「錦秋・糸の森」

ごあいさつ



撮影 篠山紀信

糺の森財団

理事

竹下

景子

(俳優)

日頃より、皆様には糺の森財団の事業にご支援とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

あまたある京都の神社仏閣の中でも、下鴨神社は平安遷都のはるか古より多くの崇敬を集めてきました。その下鴨神社が有する糺の森は、古くは縄文時代から人々が祈りを捧げる聖域でした。今も、三万六千坪の敷地に落葉広葉樹の森が広がっています。

初めて訪れたのは二十年前、以来、新木直人宮司様には深い懷で接して頂いております。京都の街中に原生林の趣きを今に伝える大きな森があるのに驚きました。そこには悠久の時間が流れています。心洗われるとともに、太古より連綿と受け継がれてきた人々の祈りや願いのこもったこの森を守っていくことの大切さを強く思いました。

四年前の台風により、樹齢数百年になる大木の多くが倒れました。今も、倒木の後を目にしますが、それ以上に新たに植樹されているのを森のあちこちで見ることが出来ます。一本一本にお名前の記載されたプレートがかけられて、献木だと分かります。糺の森に自生していたケヤキ、ムクノキ、エノキ、カツラ、カエデを中心に植樹が進んでいます。これから五十年、百年後には立派な大木に成長していることを願わずにはいられません。

四季折々に糺の森が見せてくれる自然の美しさ。新緑に輝く季節は、流鏑馬神事や葵祭とともに、京都に初夏の訪れを告げます。また秋は、森全体が紅葉と黄葉に彩られます。新木宮司様に、糺の森の紅葉は「のこり福」と教えて頂き嬉しくなりました。

このかけがえのない糺の森を永く残していくために、微力ながら努めて参りたいと存じます。関係の皆様におかれましては、糺の森を守るため今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

糺の森

ぶらりぶらり

第二十五回

現在、下鴨神社では、江戸時代末まで糺の森に継承されてきた神宮寺跡の整備を実施致しております。

この度、神宮寺観音堂の復元模型の制作指導にあたられた京都美術工芸大学の井上准教授にご寄稿をいただきました。

延宝度神宮寺観音堂の復元について

京都美術工芸大学

建築学科

准教授

井上

年和

下鴨神社の神宮寺は、弘仁元年(810)の造立で、「鴨社古図」などによっても古代における神仏習合時代の社頭の様相が伝えられています。

また、近世以降の姿についても、近年、神宮寺跡の整備に伴う史料調査、発掘調査等により明らかになってきたようです。

私も、平成二十三年度(2011年度)、一般財団法人建築研究協会研究員時代に史料調査の一部を担当させていただくことができました。

また、大学勤務後は、令和二年度(2020年度)に私の研究室に配属となった学生(辻佐祐くん 現在は株式会社西日本模型勤務)から、卒業制作の題材として下鴨神社神宮寺の研究を行いたいという要望を受け、その指導に当たることとなりました。聞けば下鴨神社の近くに住まいがあり幼少期から神社の境内が遊び場で、おじいさんも社殿の修復などに携わっていたことから馴染み深く、神宮寺跡のこともずっと気になって興味を持っており、また、建築模型を制作するのが好きであると言います。

私は、このようにおじいさんの意思を受け継いだ辻くんの志に感銘を受け、なんとか神宮寺の復元模型を作成しようと決心した次第であります。

そこで、まずは、史料調査を更に深め、また、他の神宮寺関連遺構なども調べることにしました。

調査を進めると、近世における神宮寺については、延宝六年(1678)に観音堂、閼伽棚、雑舎、雪隠、廻廊などが新造されたときの建築に関する記録が詳細に書かれ、時代の近い類例が存在することから、延宝度に新造された観音堂の復元設計を試み、模型で表現してみようということになりました。

延宝度神宮寺観音堂復元模型(縮尺:1/40) 辻 佐祐作成

本稿では、その復元過程について、書かせていただきたいと思えます。

復元にあたって根拠とした史料として、はじめに京都学・歴史館所蔵の「下賀茂河合社堂舎絵図」が挙げられます。

この絵図は、江戸幕府の京都御大工頭の中井家に伝わる文書の一つで、下鴨神社境内全体図と御蔭神社境内図が描かれたものですが、建造物の名称や配置、形状、規模、柱位置、建具の種類などが描かれていて、建造物毎に屋根葺材が色分けされています。

資料年代は未詳とされていますが、河合神社境内の建造物配置が延宝度式年遷宮以降の状況を示しており、また、拝殿東側の小経所について寛保元年の修理に関する書き込みが貼紙されていることから、延宝七年（1679）～寛保元年（1741）頃の社頭景観を描いたものと考えられ、神宮寺周辺では、池の北側に観音堂が建ち、その背後に次之間台所、雑舎、湯殿・雪隠が廊下で接続され、西側には井土（井戸）屋形、西雪隠、下部屋などが堀に取り囲まれている様子がわかります。観音堂については、建具や壁などの柱間装置や天井の形式などが具体的に記入されていて、復元の根拠とな

表1「延宝六年下鴨神社造営記」による各部位の詳細

部位	摘要
規模	桁行五間梁間三間
柱太さ	6.4寸
組物	大斗肘木
軒の出	茅負外まで5.1尺
向拝打越	3.1寸
檼(たるき)	壺軒
屋根	瓦葺き
壁	白土塗
須弥壇	長8.66尺 幅4尺 高3尺
地板廻り高欄	擬寶珠逆蓮 真塗
部(しとみ)	南面 蟬樞



図3 蟬樞の付いた蒔戸(大覚寺宸殿)



図4 葵があしらわれた蓑股(乗願院本堂)

りました。(図1)

また、古文書史料として、京都大学大学院工学研究科建築学専攻が所蔵する『賀茂原主社家文書』『延宝六年下鴨神社造営記』があります。その内容は、延宝六年（1678）に下鴨神社境内外各建物の修復や新造に際しての記録で、観音堂に関しては、この時に新造され、構造形式や規模などが中井家の絵図と合致している上に、部材の寸法や屋根、建具・造作、飾り金具などの仕様についても事細かく記述されていました。

柱の太さは六尺四寸、軒の出は茅負外まで五尺一寸などの主要寸法、屋根は瓦葺きで壁は白土塗、須弥壇は

擬宝珠が逆蓮という禅宗様の形状で真塗(黒色の漆塗)、南面の建具は蒔戸で蟬樞という金具が付いていることなどの細かい仕様も書かれています。

この「蟬樞」は、大覚寺宸殿や清水寺本堂、知恩院御影堂、仁和寺御影堂など、江戸時代初期に建てられた文化財建造物にも用いられており、十七世紀後半になっても神宮寺で採用されていたことは非常に興味深いことです。

更に、乗願院本堂の調査をさせていただく機会が得られましたことも幸運に恵まれました。

この建物は、かつて上賀茂神社に存在した神宮寺観音堂で、建立年代は寛

永六年（1629）と伝えられています。下鴨神社と同様に廃仏毀釈により廃寺となりましたが、明治二年（1869）北白川の乗願院に移築され現存しています。今回復元した観音堂とは建立年代に五十年ほど開きがあり、移築時に増改築が施されているものの、建立当初の構造形式や規模が同等で、南面建具も蒔戸が嵌められ、須弥壇も逆蓮の親柱を持つ禅宗様であることなど共通点が多々認められました。

蓑股には葵の模様があしらわれるなど、賀茂社関連特有の細部意匠が見られたことから、今回の復元にも大いに参考になる箇所がありました。

このように、古図や古文書には書かれていない知見を得られる類例建物の存在は、非常に貴重でもあると言えるのではないのでしょうか。

こうして作成した復元模型により、在りし日の神宮寺観音堂に思いを馳せていただけると幸いです。

なお、この原稿作成にあたりまして、一般財団法人建築研究協会および乗願院さま、辻佐祐くんにはお世話になりました。ここに謝意を表します。

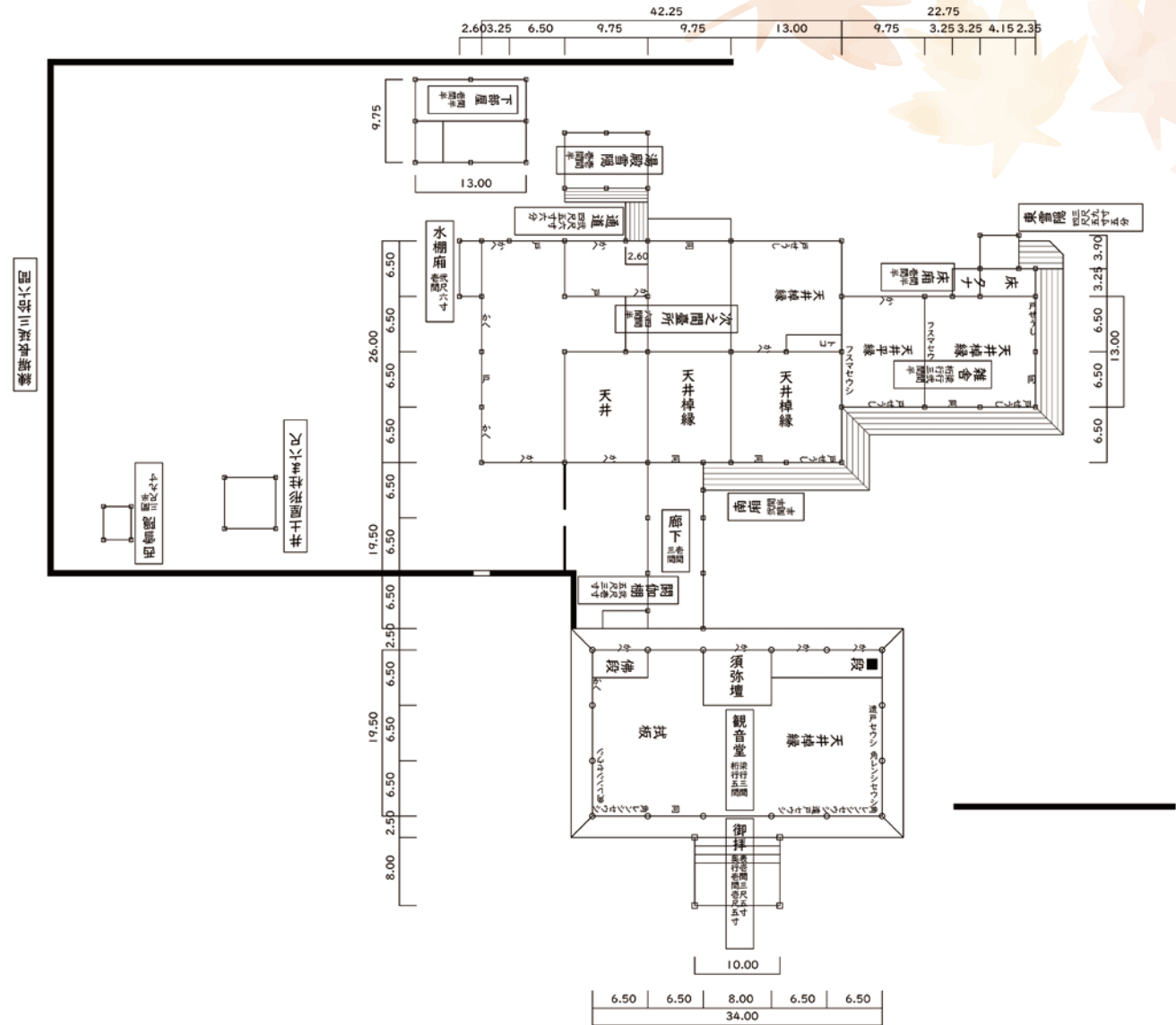
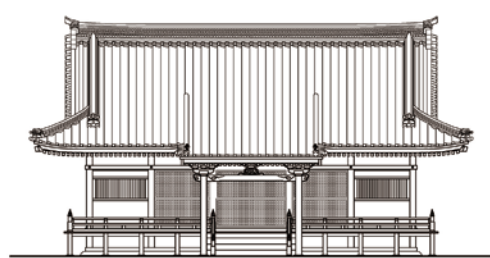
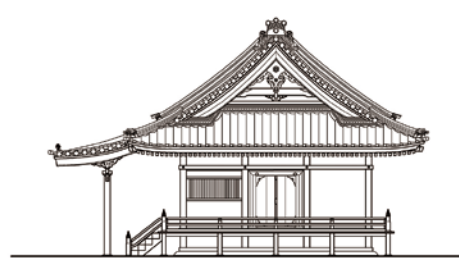


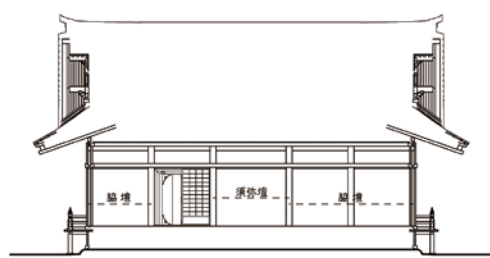
図1 神宮寺配置図
『下鴨・河合社堂舎絵図』を模写・加筆
(一般財団法人建築研究会 作成)
単位は尺



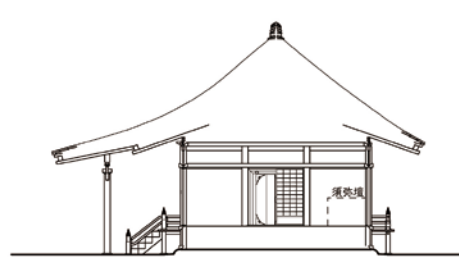
正面図



側面図



桁行断面図



梁間断面図

図2 観音堂復元図
(辻佐祐 作成)



